

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 静岡市立和田島こども園

(※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校     中高一貫<sup>※注2</sup>     高等学校  
 教員養成大学     専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（幼保連携型認定こども園）

※注1 義務教育学校を含む    ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒424 - 0403

E-mail washimakodomo@city.shizuoka.lg.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 15 名 女子 15 名 合計 30 名  
幼児・児童・生徒の年齢 3 歳～6 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当園は、「心豊かでたくましい両河内の子」を教育保育目標として、ESDを「地域の自然・産業に親しみ食の体験につなげる保育実践」と捉え、ESDの実践を通して地域への愛着の醸成を目標とした。

具体的には、地域の人、自然、産業という視点から、食育、クッキングに係わる体験（①たけのこに係わる活動、②お茶に係わる活動、③桑の実に係わる活動、④さつまいもに係わる活動）を行った。

今まで当たり前のように地域の方、保護者の協力のもとに行ってきた食の体験だが、恵まれた環境のもとで、ただ同じように活動を繰り返していくのでは単なる行事や活動である。ユネスコスクールを「持続可能な開発のための教育」の推進拠点と位置付けていることを意識し、子ども達が生まれ育っているこの地域の人とつながり、自然や産業の有難さや素晴らしさを感じながら活動することが、地域への愛着となり、地域の自然や産業、文化を守り発展させることにもつながると考えた。

① タケノコに係わる活動

例年は、保護者の方からいただいた茹でたタケノコを子ども達が包丁で切り、職員が作った味噌汁の中に入れて食べるという活動であったが、今年度は事前活動として「和田島自然の家」に出掛け、どんなふうにタケノコが出ているかを見ることができた。自分達でタケノコを発見することで興味や関心があった。また味噌汁作りでは、皮付きの茹でたたけのこの皮を剥き、出汁をとるところから体験したことが、より地域産のたけのこへの愛着が強まった。その後園外保育に出掛けると、竹林の山を眺め「緑色は古い竹、黄緑色は新しい竹」と気づく会話があり、竹にも関心が高まったことを実感した。

② お茶に係わる体験

お茶摘みを毎年保護者の茶畑で体験しているが、今年度は事前に近くの茶畑に出掛けることで茶畑への関心をもつことができた。また、ちょうど茶摘みをしていたご夫婦のご厚意で思いがけずお茶摘みを体験し、持ち帰った茶葉を天ぷらにして食べお茶への関心が高まった。本番のお茶摘みがより楽しいものとなり、この時摘んだ茶葉を園に少し持ち帰り、ホットプレートの上で蒸かし手もみ茶に挑戦しお茶ができるまでのプロセスを体験したり、お茶ケーキを作って味わったりするなど、地産のお茶の美味しさ、お茶農家の方々の仕事の様子などにも気づくことができた。製茶したお茶は3月の「親子お茶会」でも味わい、一年を通した活動になった。

③ 桑の実に係わる体験

園外保育で何度も出掛ける和田島自然の家の職員に「桑の実」がもうすぐ収穫できることを教えていただき、「黒くなったから食べごろだよ」と連絡をいただく。当日は、木を揺すって、逆さにしたビニール傘の中に実を落とすという楽しい収穫を体験した。年長児が桑の実の軸を一つずつ丁寧に取り除き、ジャムづくりを体験した。自分たちで収穫し作ったジャムを「おいしい」と味わうことができた。和田島自然の家とのつながりができ、子ども達にも職員にとっても、自然の豊かさや収穫の楽しさを教えていただく身近で貴重な場となった。

④ サツマイモに係わる体験

園の畑で収穫したサツマイモを焼き芋にして食べた後、近所のお宅の軒下に「干し芋」が並んでいることに気づく。年中児の活動に適しているのではないかと考え、興味関心もてるように干し芋を見せていただく。自分も知っている、食べたことがあると言い、作り方を教えていただいた。年中児にとっては包丁を使う初めてのクッキングとなったが、工程が簡単であること、毎日できあがりを楽しんで見ることができ、数日後皆で味わうことができた。



① の写真



② の写真



③ の写真



④ の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(こども園の教育時間 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ESD とユネスコスクール  
（静岡大学教育学部 ESD・ユネスコスクール推進プロジェクト）  
ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引き（初版）  
（文部科学省国際統括官付 日本ユネスコ国内委員会）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

地域の自然、産物に興味関心を深めていくために、昨年度までの園外保育やクッキング、食体験の計画の見直しをした。地域の人や産業に親しみをもち、友達と一緒に経験をするという活動はもちろんだが、その日、その活動だけの単発に終わらないように、子ども達が興味関心を持ち楽しみになるような事前の活動を行い、同じ経験をしたことによって子どもたち同士がつながり、さらに事後の活動を計画するように位置付けた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

昨年度までの活動に関わってきた地域の人、保護者への協力の要請をしている。また、地域の行事や小中学校との交流に意識して参加し、地域の人材を紹介していただく。職員間では、昨年度までの活動を把握するために報告書や資料を皆で共有する。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

園内では、ユネスコスクールとして認定されたことを報告し、「ESD」の意味について紙面で知らせながら伝えた。また、今年度の活動をパワーポイントで報告した。成果としては（保護者アンケートなどから）、園での活動を視覚で理解していただき、園の教育保育目標や活動の内容について関心を深めてもらえたのではないかと。課題としては、まだ保護者に実感が無い方もいるのは、発信が不足していると考えられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

④と重なるが、園内にて保護者に今年度ユネスコスクールに認定されたこと、実践報告会を行った。また、静岡大学主催の ESD カフェを自園で開催していただき、他園、小中学校、高校関係者の方々に報告したり、意見交換をしたりする場をいただいた。自園の実践を知っていただくと共に、園の周りの環境にも関心を示していただいた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

⑤と重なるが、静岡大学主催の ESD カフェを自園で実施し、他園と共に活動報告をして意見交換をした。また、高校の ESD 研修会にも参加させていただき、自園の活動報告をする機会を得た。12月の「遊びと生活展」では、他園と共に出品、ESD・国際化カフェに参加し、改めて ESD とは何かと考え合う機会や連携をもつことができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

今年度は、静岡市内のこども園、小中高校とは ESD カフェや研修会を通じた交流はあったが、市外での交流はなかった。今後、機会があれば交流を希望する。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

職員自身が地域の自然、産業に関心をもち、地域の人とつながろうとする意識が高まったことから、地域の人材を有効に活用し、行事や活動に招く等の機会が増え、地域の人との関係作りがより強まってきた。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

この地域ならではの活動を継続していくことが大事だと考えているので、「地域の自然・産業に親しみ、食の体験につなげる保育実践」の活動を積み重ねていく。また、食育体験だけではなく、地域の人から昔からの伝承あそびを教えていただき日々の遊びに取り入れていく等、地域の人材を有効に活用させていただくことを計画している。そして、今年度は食の体験と共に、園外保育の充実も実践してきたので、園外保育に今年度以上に  
出掛ける機会を多く持ち、子ども達が人や自然、産業、文化に触れ関心をもてるように実践することを計画している。